

みずほマーケット・トピック(2016 年 4 月 1 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3.本日のトピック」はお休みとさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は弱含む展開。週初 28 日、113 円台半ばでオープンしたドル/円は、米 2 月コア PCE デフレーターが市場予想を下回ると、米金利低下に伴って 113 円台前半まで下落。29 日は期末絡みのドル売りも散見される中、113 円台前半で推移。午後に入り、安倍首相が会見を行うとの報道を受けて消費税増税の先送りなど、追加景気対策への期待が高まり、ドル/円は一時週高値となる 113.80 円まで上昇。しかし、首相会見では景気対策への言及がなく、ドル/円は 113 円台前半まで下落した。米国時間に入って注目されたイエレン FRB 議長の講演でハト派な発言が伝わるとドル売りが強まり、ドル/円は 112 円台後半まで売り進められた。30 日にかけてもドル売り優勢地合いが継続する中、ドル/円は一時週安値となる 112.02 円まで値を下げた。その後、米 3 月 ADP 雇用統計の市場予想を上回る結果にドル/円は 112 円台後半まで値を戻すものの、徐々に売り買いが交錯する展開となり、112 円台半ばを挟んで揉み合い推移に。31 日は月末需要のドル売りやクロス円の買いに挟まれてドル/円は 112 円台前半で小動きが継続も、NY 時間に入ると、米 3 月シカゴ購買部協会景気指数が市場予想を上回ったことなどを受けドル/円は 112 円台半ばまで上昇。本日にかけては、米 3 月雇用統計を控え、112 円台前半での値動きとなっている。
- ・今週のユーロ相場は上昇する展開。週初 28 日、1.11 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週安値となる 1.1152 をつけるも米 2 月コア PCE デフレーター市場予想を下回る結果を受けたドル売りに、1.12 円前半まで上昇した。29 日は、イエレン議長のハト派な発言を受けてドル売りが強まるとユーロ/ドルは 1.12 円後半まで急伸、その後も米金利が低下する動きにドル売りは継続し、1.13 台に乗せた。30 日には、独 3 月消費者物価指数への期待感や欧州株の堅調推移を背景にユーロ/ドルは 1.13 円前半まで上昇、ドル売りが優勢となる中で 1.13 円後半まで値を伸ばしたが、期末絡みのユーロ売りが入ると 1.13 円前半まで反落し新規材料に乏しい中で方向感に欠ける値動きに。31 日は、米新規失業保険申請件数の市場予想より弱い結果を受けてドル売り優勢地合いの展開に、ユーロ/ドルは一時週高値となる 1.1412 をつけるも、その後はドル買い優勢に転じ、1.13 円後半に反落。本日にかけては米 3 月雇用統計を控えユーロ/ドルは同水準にて堅調な推移が継続している。

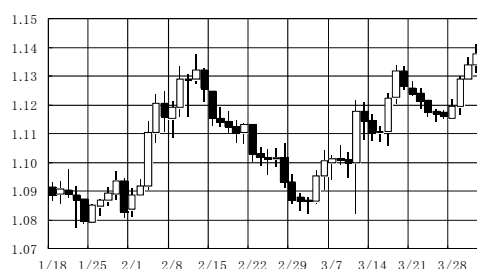
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		3/25(Fri)	3/28(Mon)	3/29(Tue)	3/30(Wed)	3/31(Thu)
ドル/円	東京9:00	112.84	113.47	113.36	112.67	112.39
	High	113.32	113.69	113.80	112.81	112.67
	Low	112.75	113.15	112.61	112.02	112.11
	NY 17:00	113.11	113.46	112.72	112.43	112.57
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1166	1.1157	1.1201	1.1291	1.1332
	High	1.1181	1.1220	1.1303	1.1365	1.1412
	Low	1.1152	1.1152	1.1169	1.1286	1.1311
	NY 17:00	1.1166	1.1198	1.1291	1.1339	1.1381
ユーロ/円	東京9:00	126.01	126.58	126.98	127.19	127.28
	High	126.49	127.05	127.45	127.82	128.22
	Low	125.96	126.44	126.78	126.79	126.97
	NY 17:00	126.39	127.03	127.33	127.48	128.12
日経平均株価		17,002.75	17,134.37	17,103.53	16,878.96	16,758.67
TOPIX		1,366.05	1,381.85	1,377.60	1,356.29	1,347.20
NYダウ工業株30種平均		-	17,535.39	17,633.11	17,716.66	17,685.09
NASDAQ		-	4,766.79	4,846.62	4,869.29	4,869.85
日本10年債		-0.09%	-0.08%	-0.08%	-0.09%	-0.03%
米国10年債		1.90%	1.89%	1.80%	1.82%	1.77%
原油価格(WTI)		-	39.39	38.28	38.32	38.34
金(NY)		-	1,222.00	1,237.50	1,228.60	1,235.60

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・米国では、6日(水)にFOMC議事要旨(3月15～16日開催分)が公表される。3月FOMCでは政策金利の据え置きが決定されたほか、FOMCメンバーの政策金利見通し(ドットチャート)が下方修正され、2016年に予想される利上げ回数が2回に半減した(利上げペースを25bpずつと仮定)。こうした背景には米経済の回復にも拘わらず伸びの鈍い賃金動向や、国際経済と金融動向の下方リスクがあった模様だ。FOMC後にはイエレンFRB議長がハト派な発言を行っているものの、複数のFRB高官は早期利上げを示唆するなど、タカ派な主張も相次いでいる。FOMCメンバー内でも利上げに関する意見の隔たりが生じていると見られ、タカ派メンバーによる主張の根拠が注目される。このほか経済指標では、5日(火)に2月貿易収支、3月ISM非製造業景気指数が発表される。また、4日(月)にローゼングレン・ボストン連銀総裁、6日(水)にメスター・クリーブランド連銀総裁、8日(金)にイエレンFRB議長による講演が予定されている。
- ・本邦では、4日(月)に3月日銀短観「企業物価見通し」、5日(火)に2月毎月勤労統計、8日(金)に3月景気ウォッチャー調査、2月経常収支が発表される。このうち、3月企業物価見通しは、1月のマイナス金利政策決定直後の調査であり、同政策が企業のインフレ期待に与えた影響が焦点となる。昨年9月、12月企業物価見通しでは先行きの物価見通しが2四半期連続で下方修正されている。マイナス金利政策に対する国内からの評判は悪く、今回調査でも下方修正されるようであれば、同政策に対する評価はさらに低下する可能性が高い。また、マイナス金利政策の影響が徐々に浸透する中で、3月景気ウォッチャー調査では前月に見られた同政策への悪評がどのように変化するかが注目される。このほか、2月経常収支は既に発表されている貿易統計を基に計算すると+1兆4000億円程度と20か月連続の黒字になり(市場予想:+2兆60億円の経常黒字)、1月(+5208億円の経常黒字)から黒字額が拡大する見込み。金融政策関連では、7日(木)に日銀支店長会議が開催され、さくらレポートの公表と黒田日銀総裁による挨拶が行われる。
- ・欧州では、7日(木)にECB理事会(3月10日開催分)の議事要旨が公表される。3月ECB理事会では、政策金利の引き下げや量的緩和の拡大など市場予想を上回る策が決定された。但し、ドラギECB総裁が会見で利下げ打ち止め感を出すなど、理事会がタカ派に止まらず同政策の副作用を憂慮している様子が伺える。議事要旨では、今後の追加緩和に関する議論などが注目されよう。このほか、4日(月)にユーロ圏2月生産者物価指数(PPI)、5日(火)にユーロ圏2月小売売上高、6日(水)に独2月鉱工業生産が発表される。

	本 邦	海 外
4月1日(金)	・3月日銀短観「企業物価見通し」	・米3月雇用統計 ・米3月ISM製造業景気指数 ・米2月建設支出 ・米3月ミシガン大学消費者マインド(確報) ・ユーロ圏2月失業率
4日(月)	・3月マネタリーベース	・米2月製造業新規受注
5日(火)	—————	・米2月貿易収支 ・米3月ISM非製造業景気指数
6日(水)	・2月景気動向指数(速報)	・米FOMC議事要旨(3月15～16日開催分) ・独2月鉱工業生産
7日(木)	—————	・米2月消費者信用残高 ・欧ECB理事会議事要旨(3月10日開催分)
8日(金)	・2月経常収支 ・3月景気ウォッチャー調査 ・3月企業倒産件数	・米2月卸売売上高 ・独2月貿易収支

【当面の主要行事日程(2016年4月～)】

G20財務相・中央銀行総裁会議(4月14～15日、ワシントン)
IMF・世界銀行春季総会(4月15～17日、ワシントン)
ECB理事会(4月21日、6月2日、7月21日)
ユーロ圏財務相会合、EU経済財務相理事会(ECOFIN)(4月22日～23日)
米FOMC(4月26～27日、6月14～15日、7月26～27日)
日銀金融政策決定会合(4月27～28日、6月15～16日、7月28～29日)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2016年4月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 日銀短観(3月調査) 日本 自動車販売台数(3月) 米国 雇用統計(3月) 米国 ISM製造業景気指数(3月) 米国 建設支出(2月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、3月) ユーロ圏 失業率(2月)	
4 日本 マネタリーベース(3月) 米国 製造業新規受注(2月)	5 米国 貿易収支(2月) 米国 ISM非製造業景気指数(3月) ドイツ 製造業受注(2月)	6 日本 景気動向指数(速報、2月) 米国 FOMC議事要旨(3月15～16日開催分) ドイツ 鉱工業生産(2月)	7 米国 消費者信用残高(2月)	8 日本 国際収支(2月) 日本 景気ウォッチャー調査(3月) 日本 企業倒産件数(3月) 米国 卸売売上高(2月) ドイツ 貿易収支(2月)	
11 日本 機械受注(2月)	12 日本 貸出・預金動向(3月) 米国 財政収支(3月)	13 日本 企業物価(3月) 日本 マネーストック(3月) 米国 小売売上高(3月) 米国 生産者物価(3月) 米国 企業在庫(2月) 米国 ページュブック ユーロ圏 鉱工業生産(2月)	14 米国 消費者物価(3月) ユーロ圏 消費者物価(確報、3月) G20財務相・中央銀行総裁会議(ワシントン、～15日)	15 日本 鉱工業生産(確報、2月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(4月) 米国 鉱工業生産(3月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、4月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、2月) 米国 IMF・世界銀行春季総会(ワシントン、～17日) ユーロ圏 貿易収支(2月)	
18	19 米国 住宅着工(3月) ユーロ圏 国際収支(2月) ドイツ ZEW景況指数(4月)	20 日本 貿易収支(3月) 米国 中古住宅販売件数(3月)	21 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(4月) 米国 景気先行指数(3月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	22 日本 第三次産業活動指数(2月) ユーロ圏 財務相会合(アムステルダム)	23 ユーロ圏 EU経済・財務相理事会 (ECOFIN、アムステルダム)
25 日本 企業向けサービス価格(3月) 日本 景気動向指数(確報、2月) 米国 新築住宅販売(3月) ドイツ IFO企業景況感指数(4月)	26 米国 FOMC(～27日) 米国 耐久財受注(3月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(2月) 米国 消費者信頼感指数(4月)	27 日本 日銀金融政策決定会合(～28日)	28 日本 金融政策決定会合・展望(基本的見解) 日本 東京都都区消費者物価(4月) 日本 全国消費者物価(3月) 日本 労働力調査(3月) 日本 家計調査(3月) 日本 商業販売統計(3月) 日本 新設住宅着工(3月) 日本 鉱工業生産(速報、3月) 米国 GDP(1次速報、1～3月期)	29 日本 昭和の日 米国 雇用コスト(1～3月期) 米国 個人所得・消費(3月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(4月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、4月) 米国 PCEコアデフレーター(3月) ユーロ圏 失業率(3月) ユーロ圏 消費者物価(速報、4月) ユーロ圏 GDP(確報値、1～3月期)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2016年5月)

月		火		水		木		金		週末	
2	日本 自動車販売台数(4月) 米国 ISM製造業景気指数(4月) 米国 建設支出(3月)	3	日本 憲法記念日	4	日本 みどりの日 米国 ADP雇用統計(4月) 米国 貿易収支(3月) 米国 労働生産性(1～3月期、速報) 米国 ISM非製造業景気指数(4月) 米国 製造業新規受注(3月)	5	日本 こどもの日	6	日本 マネタリーベース(4月) 米国 雇用統計(4月) 米国 消費者信用残高(3月)		
9	日本 *企業倒産件数(4月) ドイツ 製造業受注(3月)	10	米国 卸売売上高(3月) ドイツ 鉱工業生産(3月) ドイツ 貿易収支(3月)	11	日本 景気動向指数(速報、3月) 米国 財政収支(4月)	12	日本 国際収支(3月) 日本 貸出・預金動向(4月) 日本 景気ウォッチャー調査(4月) ユーロ圏 鉱工業生産(3月)	13	日本 マネーストック(4月) 日本 第三次産業活動指数(3月) 米国 小売売上高(4月) 米国 生産者物価(4月) 米国 企業在庫(3月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、5月) ユーロ圏 GDP(速報値、1～3月期) ドイツ GDP(速報値、1～3月期)		
16	日本 企業物価(4月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(5月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、3月)	17	日本 鉱工業生産(速報、3月) 米国 住宅着工(4月) 米国 消費者物価(4月) 米国 鉱工業生産(4月) ユーロ圏 貿易収支(3月)	18	日本 GDP(速報、1～3月期) 米国 FOMC議事要旨(4月26～27日開催分) ユーロ圏 消費者物価(速報、4月)	19	日本 機械受注(3月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(5月) 米国 景気先行指数(4月) ユーロ圏 国際収支(3月)	20	日本 景気動向指数(速報、3月) 米国 中古住宅販売(4月)		
23	日本 貿易収支(4月) 日本 景気動向指数(速報、3月)	24	米国 新築住宅販売(4月) ドイツ ZEW景況指数(5月) ドイツ GDP(速報値、1～3月期) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル)	25	ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(アムステルダム) ドイツ IFO企業景況感指数(5月) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ブリュッセル)	26	日本 企業向けサービス価格(4月) 米国 耐久財受注(4月) G7首脳会合(伊勢志摩、～27日)	27	日本 東京都都区消費者物価(5月) 日本 全国消費者物価(4月) 米国 GDP(2次速報、1～3月期) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、5月)		
30	日本 商業販売統計(4月)	31	日本 家計調査(4月) 日本 鉱工業生産(速報、4月) 日本 新設住宅着工(4月) 日本 労働力調査(2月) 米国 個人所得・消費(4月) 米国 PCEコアデフレーター(4月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(5月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(5月) 米国 消費者信頼感指数(5月) ユーロ圏 失業率(4月) ユーロ圏 消費者物価(速報、5月)								

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2016年3月28日	日銀、「5分で読めるマイナス金利」に思うこと
2016年3月25日	週末版
2016年3月24日	ユーロ相場、再考～実質金利、PPP、実質実効為替相場～
2016年3月23日	ブリュッセルテロを受けて～目立つ英ポンドの動揺～
2016年3月22日	ユーロ圏経常黒字とユーロ相場の近況について
2016年3月18日	週末版(過去2か月のG3通貨相場から言えること～基軸通貨には逆らえず～)
2016年3月17日	FOMCを終えて～やはり「2回出来れば御の字」の米利上げ～
2016年3月16日	日銀金融政策決定会合について～際立つECBとの対比～
2016年3月15日	TLTRO2Iに関するQ&A～侮れない、その実力～
2016年3月14日	求められる、市場期待に対して「No」と言う勇氣
2016年3月11日	週末版(ECB理事会を終えて～悔やまれる満点回答～)
2016年3月10日	日銀会合プレビュー～「Mr.Kurodaは気にしない」のか？～
2016年3月4日	週末版
2016年3月3日	今年が「円高の年」なら、まだ底は深い～過去30年の経験則～
2016年3月2日	ECB理事会プレビュー～注目すべき論点の整理～
2016年3月1日	上海G20、為替見通しへのインパクトについて
2016年2月26日	週末版(筋が通らない日中に対する通貨安批判～まずはFRBの政策修正が筋～)
2016年2月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年1月分)
2016年2月24日	英国のEU離脱に係る論点整理
2016年2月22日	中国版ブラジレ合意へ揺る期待について
2016年2月19日	週末版(ECB理事会議事要旨(1月21日開催分)を受けて～「保険」≡「混乱の種」という皮肉～)
2016年2月16日	マイナス金利で円高は「不幸中の幸い」？
2016年2月12日	週末版(やはり始まった購買力平価への回帰～最終的に報われる為替予測とは～)
2016年2月10日	弱まる「期待への働きかけ」と為替相場の関係
2016年2月9日	円の需給環境の総括と展望～15年国際収支を受けて～
2016年2月8日	米1月雇用統計を受けて～成熟化への不安～
2016年2月5日	週末版(マイナス金利決定から1週間を終えて～早くも心配される「本当のマイナス金利」～)
2016年2月4日	「終わりの始まり」が近づくFRBの正常化プロセス
2016年2月3日	円安ドライバーとしては役不足な日銀マイナス金利
2016年2月2日	日銀の追加緩和が可能だった理由
2016年2月1日	日銀マイナス金利政策導入を受けて～逐次投入体制へ～
2016年1月29日	週末版
2016年1月28日	FOMC(1月26～27日開催分)を受けて
2016年1月27日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年12月分)
2016年1月26日	ドラギ総裁講演について～崩れるインフレ期待の「壁」～
2016年1月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～静観する勇氣～
2016年1月22日	週末版(ECB理事会を終えて～2連敗は避けられるか？～)
2016年1月21日	円相場の調整余地を探る～試される日銀～
2016年1月20日	ユーロ相場を巡る最近の証券投資フローについて
2016年1月19日	ECB理事会プレビュー～ECB版の補完措置へ向けて～
2016年1月18日	「あく抜け」に求められるもの～人民元の完全フロート化～
2016年1月15日	週末版(ECB理事会議事要旨について～ドラギマジック、「初の黒星」の舞台裏～)
2016年1月14日	厳しくなってきたFRBの「痩せ我慢」
2016年1月13日	本邦11月国際収支統計と円相場の需給について
2016年1月12日	Game changerになれなかった米12月雇用統計
2016年1月8日	週末版(中国外貨準備減少の正しい読み方～トリレンマの「総取り」はいつまでも出来ない～)
2016年1月7日	FOMC議事要旨～「ハト派なタカ派」を再確認～
2016年1月5日	119円台前半の意味～想定為替レートとの対比～
2016年1月4日	2016年の為替見通しポイント～過去2年との違い～
2015年12月28日	2015年の為替相場総括～為替従属強まる日米欧中銀～
2015年12月25日	週末版(【暫定版】中期為替相場見通し～ユーロ相場～)
2015年12月24日	【暫定版】中期為替相場見通し～ドル/円相場～
2015年12月22日	完全雇用の背後にあるもの～景気と雇用のズレ～
2015年12月21日	日銀金融政策決定会合～QQE2.5の読み方～
2015年12月18日	週末版
2015年12月17日	FOMCを終えて～ドル/円見通しに影響なし～
2015年12月16日	日米金利差から見る現状のドル/円相場
2015年12月14日	日銀短観12月調査～後がない想定為替レート～
2015年12月11日	週末版(ECBのバランスシート拡大について～「2016年6月」に向けての進捗状況～原油価格下落のG3通貨への含意)
2015年12月9日	原油価格下落のG3通貨への含意
2015年12月8日	本邦10月国際収支統計と円相場の需給について
2015年12月7日	ECBはどうしたら踏み込むのか？今後のユーロ相場は？
2015年12月4日	週末版(ECB理事会を終えて～「故意的な失望」は転ばぬ先の杖か～)
2015年12月3日	イエレン講演や限界に迫るドル買い相場
2015年12月2日	実質実効為替相場(REER)で見る、ドル相場・円相場
2015年12月1日	ECB理事会プレビューの補足～超日銀化現象～
2015年11月27日	週末版
2015年11月26日	追加緩和後のユーロ相場～また、「下落の時代」？～
2015年11月25日	ECB理事会プレビュー(12月3日開催分)～3つの緩和メニュー～
2015年11月24日	ECB理事会議事要旨～「未知の領域」への不安も～
2015年11月20日	週末版
2015年11月17日	本邦7～9月期GDPを受けて～最近のULC動向～
2015年11月16日	仏同時多発テロを受けて～政治統合か、瓦解か～
2015年11月13日	週末版(ドル調達コストの急騰について～「割に合わない」ムードが強まる対外証券投資～)
2015年11月12日	12月ECB緩和を阻むもの～戻ってしまったインフレ期待～
2015年11月11日	米輸入物価下落が示す「不況の輸入」
2015年11月10日	本邦9月国際収支統計と円相場の需給について
2015年11月9日	米10月雇用統計を受けて～問題は「何回できるか」～
2015年11月6日	週末版(ECBの「次の一手」を考える～預金ファシリティ金利のマイナス幅はどこまでいくのか～)
2015年11月4日	3度目の正直に挑む、ドル/円相場の年間値幅
2015年11月2日	日銀金融政策決定会合を終えて～幻滅リスク回避も・・・～
2015年10月30日	週末版
2015年10月29日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年9月分)
2015年10月28日	FOMC声明文のプレビュー～注目すべき3点～
2015年10月27日	振り出しに戻った投機筋の円売り～2つの理由～
2015年10月26日	ECB緩和予告は日銀を追い詰めたと言えるのか？
2015年10月23日	週末版(ECB理事会を終えて～止まりそうにない金融政策の通貨政策化～)
2015年10月21日	米為替政策報告書について～我慢の限界は近い？～
2015年10月20日	日銀金融政策決定会合プレビュー(10月30日開催分)
2015年10月19日	ECB理事会プレビュー(10月22日開催分)
2015年10月16日	週末版(ユーロ相場の乱高下を受けて～迫るHICPのマイナス常態化と追加緩和～)
2015年10月15日	米利上げを再検討すべき時期に